

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	エンタメ療育スタジオRough&Diamonds		
○保護者評価実施期間	2024年 10月 8日		～ 2024年 10月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 15名	(回答者数)	11名
○従業者評価実施期間	2024年 10月 8日		～ 2024年 10月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 9名	(回答者数)	9名
○事業者向け自己評価表作成日	2024年 11月 30日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	エンタメ療育という独自プログラムにおける多様な支援方法	支援計画に沿って、個々の特性・課題に応じて下記プログラムでのアプローチ ・ダンス：感覚統合療法における運動療育 ・演劇：疑似体験等を使ったSST及び発語訓練 ・スタディ：基礎概念獲得を目的とした学習支援 ・英語・プログラミング：個々の強みを伸ばす支援 ・就学に向けた行動観察トレーニング	プログラムの種類を特性や課題に応じて増やし、個々のニーズに的確にアプローチできるようにしていく
2	個別・小集団での支援	児童の発達段階に応じてスモールステップを作り、支援計画に沿った段階的な支援アプローチ  環境適応に困り感を持つ子に対しては個別療育からスタートし徐々に環境に慣れ2名からスタートする小集団への移行トレーニング	PT・OT・STや実務経験の長い専門性の高いスタッフを配置し、より専門的かつ効果的な支援体制を構築していく
3	保護者様・関係機関(園・発達センター・病院)との密な連携体制の構築	送迎を行っていないこともあり、基本的に保護者様が療育を最初から最後まで見学頂くことが多い。そのため、見学されている際にスタッフとのほぼ毎回モニタリングを行える環境設定を提供している。日々の困り感や現状の課題をキャッチアップし、関係機関との連携を提案し、療育での様子、関係機関での様子を保護者様と共有することで包括的な支援体制を構築できている。	関係機関との連携をさらに充実させ、より地域全体で支える支援体制を構築し療育からの卒業、自立した生活を目指していけるように地域連携を充実させていく

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	送迎ニーズへの対応	送迎がない分、共働きの利用者様などが通いたくても送迎困難が理由で通所を断念してしまうケースがある。	今後人員を増加していく中で送迎スタッフの雇用確保ができた段階で、送迎サービスも適時検討していく。
2	長時間の預かりニーズへの対応	1時間の療育プログラムサービスということで、療育以外にも保護者様のレスパイトケアへのアプローチが弱いと感じている。	お預かりニーズに応えられず通所を断念される方もいるため。今後療育時間以外でも必要に応じて療育前後の事業所での待機できるような体制構築を工夫していく必要がある。
3			